

ちひろの本棚

展示会期 **2015年5月27日(水)～8月2日(日)**

主催：ちひろ美術館

いわさきちひろは、どのような本を読んでいたのでしょうか？

自宅の跡地に開館したちひろ美術館・東京には、復元されたアトリエの本棚のなかに蔵書が当時のまま残されています。世界や日本の童話はもちろん、詩集や文学などの文芸書、美術書、動植物の図鑑、世界の文化地理大系など、ちひろの好みやインスピレーションのもとが垣間見えるさまざまな本があります。本展では、ちひろの作品とともに遺品の蔵書や資料をあわせて紹介し、ちひろの絵と本との関わりを探ります。

1963年、ちひろは下石神井の自宅にアトリエを増築。作り付けの本棚が備えられました。ちひろ美術館・東京の復元アトリエは、画机や本棚など実際に使われていたものを移築し、1972年頃の様子を再現しています。



アトリエの本棚(部分)



1 笛を吹く少年と本を読む少女 1960年代前半

わたしは、仕事の性質上、たくさんの童話をよむけれど、わたしの好きな童話というのは、あくまでも自分の絵に、都合よくできているものばかりである。詩のようにことばの短く、うつくしく、いろいろなことを思いうかべることのできる、そんなものが好きである。

いわさきちひろ 1964年

世界の童話

ちひろは1950年代から60年代、日本でもなじみ深い世界の童話の絵を数多く手がけています。スピリの「アルプスの少女」、バーネットの「小公女」、なかでも多いのが「おやゆび姫」などのアンデルセンの童話で、毎年のように繰り返し作品を描いています。

2 花のなかのおやゆび姫
『おはなしアンデルセン』(童心社)より 1965年



日本の文学

1966年に始まる童心社の「若い人の絵本」シリーズは、若い世代を対象にして、ちひろが自ら好きな文学作品を選んで絵をつけたものです。宮沢賢治の『花の童話集』、万葉集をテーマにした『万葉のうた』、樋口一葉の『たけくらべ』など、日本の文学の世界をモノクロームで叙情豊かに表現しています。

3 おきなぐさ 『花の童話集』(童心社)より 1969年



旅のスケッチ

絵を描くことの次に旅が好きだと語ったちひろは、アトリエの本棚に「世界文化地理大系」を揃え、旅のガイドブックや時刻表も置いていました。両親の故郷である信州への家族旅行や、友人との京都・奈良への旅、1963年に旧ソビエト、1966年にはヨーロッパを訪れるなど国内外を旅行し、旅先での風景をスケッチに数多く残しています。



4 モスクワ 赤の広場 1963年

花と子ども

花を愛したちひろは、庭にもたくさんの草花や樹木を育て、絵に登場する草花は80種を超えるといわれます。ちひろが持っていた植物の図鑑のほか、花に関する雑誌や写真のスクラップも残っています。



5 藤の花と子ども 1970年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

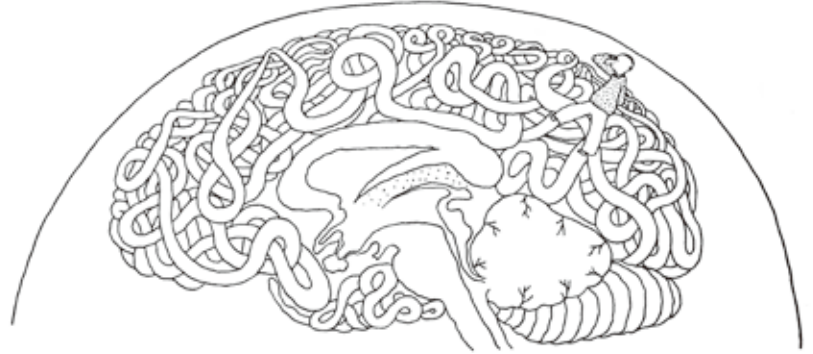
<http://www.chihiro.jp/>

TEL.03-3995-0772(業務用)

お問い合わせは、広報担当：原島・松本まで

没後10年

「長新太の 脳内地図」展



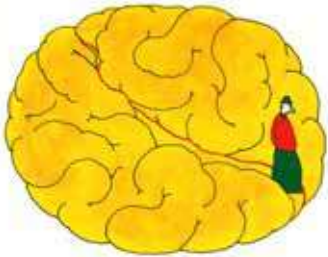
展示会期 2015年5月27日(水)～8月2日(日)

主催：ちひろ美術館 協力：あかね書房、絵本館、偕成社、教育画劇、クレヨンハウス、佼成出版社、講談社、こくま社、小学館、童心社、徳間書店、BL出版、ピリケン出版、福音館書店、復刊ドットコム、文溪堂、文研出版、ポプラ社、理論社 後援：絵本学会、こどもの本WAVE、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会、杉並区教育委員会、中野区、西東京市教育委員会、練馬区

6「破滅への道」は地図に出ているか 1973年

片方の耳をネジのように巻くと、
脳ミソのゼンマイが回転を始め、
シュルレアリスムふうな発想が、鼻の穴から出てくる。

長新太



長新太は、2005年に亡くなるまで漫画家、イラストレーター、エッセイスト、絵本画家として八面六臂の活躍をしました。なかでも、独特のユーモアあふれるナンセンス絵本で戦後の日本の絵本に新境地を切り拓きました。

長新太が亡くなって、今年で10年。作品のなかに見え隠れする画家の姿は、虚実入り乱れています。長新太とは一体何者だったのでしょうか？本展では、絵本や子どもの本の原画のほか、漫画やイラストレーションなども展示し、長新太の特異な発想の源泉を探ります。「イマジネーション」、「センスとナンセンス」の2部構成で、10のテーマから約130点の作品を展示し、迷宮のように広がる奇想天外な長新太の脳内にご案内します。

I. イマジネーション

長のナンセンス絵本は、驚きやユーモアや謎に満ちています。ときには過激なほどの不条理な展開で、あっという間に現実の世界から隔絶された不思議なイマジネーションの世界へと誘います。その発想の源とは？「巨大な…」「イカとタコ」「ライオン」「変身」の4つのテーマから探ります。

巨大な…

「一番の根本に巨大願望というか、巨大なものがかきたいというのがある」と語った長。

巨大なクレヨン、山をすっぽりと包む編みもの、巨大な鳥や芋虫…。長の絵本には、通常のスケールをはるかに超えた巨大なモチーフが登場します。



8 長新太 『ブタとタコのダンス』(学習研究社)より 2005年



でもね この くれよんは こんなに
おおきいのです。

7 長新太 『ぼくのくれよん』(新進/銀河社/講談社)より 1973年

イカとタコ

日本全国の水族館を見て回ったという長。水の生きもののなかでも、特に愛していたのがイカとタコです。なかでもタコは、繰り返し絵本に描き、世界で一番タコの絵本を描いている画家と自負していました。長のナンセンスに水を得たイカとタコは、絵本のなかで大暴れしています。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団
ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

TEL.03-3995-0772(業務用)
お問い合わせは、広報担当：原島・松本まで



「ブキャ!」

ブヤマさんは、びっくりして、ひっくりかえってしまいました。

変身

長の絵本のなかでは、特別な呪文や魔法を使うことなく、花とネコが合体したり、クジラがキャベツになったり、大胆でユーモラスな変身が起こります。

9 長新太 『キャベツくん』(文研出版)より 1980年

Ⅱ. センスとナンセンス

「長新太の絵本づくり」、「漫画一線の表現」、「ナンセンス」、「ちへいせんのみえるところ」、「快と怪」、「記憶」の6つのテーマから長新太の奇想天外な作品の背後にあるロジカルな思考と鋭敏な感覚に迫ります。



漫画一線の表現

生涯、透徹して漫画家の精神を持ち続けた長新太。長独自の明確であたたかみある線による表現を、紙芝居、絵童話、漫画、ポスターから紹介します。あわせて長の漫画を掲載した同人誌などの資料も展示します。

10 長新太 『つみつきみニャー』(あかね書房)より 1974年



11 長新太 『ゴムあたまポンたろう』(童心社)より 1998年

ちへいせんのみえるところ

長の頭のなかを覗いて見たら、きっと、どこまでも水平線や地平線が続く風景が広がっているのではないのでしょうか。ときには不安になるほどの静寂に包まれたり、猛々しくさまざまな動物が駆け抜けたりする広がりのある空間は、長新太の絵本の原風景として像を結びます。



12 長新太 『ちへいせんのみえるところ』(エイプリル・ミュージック/ピリケン出版)より 1978年

ナンセンス

長のナンセンスを評して、詩人の谷川俊太郎は「言語の被膜を取り去った本当の現実の手触り」と語りました。長新太のナンセンス絵本には、おもしろいことを求め、体全体で喜びを感じる子どものような身体感覚が宿っているようです。

そのほか、未発表のダミー本や遺品なども展示します。

長新太 (ちょうしんた / 1927~2005)



東京に生まれる。1948年東京日日新聞のマンガコンクールに一等入選し、漫画家となる。1958年堀内誠一の勧めで、最初の絵本『がんばれざるのさらんくん』を手がける。1959年『おしゃべりなたまごやき』で文藝春秋漫画賞、1981年『キャベツくん』で絵本にっぽん大賞、2005年『ないた』で日本絵本大賞など受賞多数。柔軟で斬新な発想の絵本を発表し続け、日本の絵本界にナンセンスの分野を切り拓いた。



*詳細は、ちひろ美術館ホームページでご案内します。イベント参加費の他、別途入館料が必要です(高校生以下は入館料無料)。定員、参加費が記載されていないものは、参加自由、無料です。

「長新太の脳内地図」展 関連イベント

●アートテラーとに～が語る長新太の魅力

アートテラーとに～さんが、軽妙でわかりやすいトークで、長新太のユーモアとナンセンスの世界に迫り、新たな魅力を掘り起します。

7/26 (日) 17:30~19:00

講師：アートテラーとに～ (日本で唯一の*アートテラー)

*「美術」をわかりやすく、面白いと感じるようなトークをする専門職

定員：80名 参加費：700円(入館料別)

*要申し込み 6/26(金)受付開始

1983年生まれ。千葉大学法経済学部卒業後、吉本芸人としてデビュー。その傍ら、WEBに書き続けていたアートコラムがじわじわと人気に。2007年、横浜美術館でトークイベントを開催したところ、その独自の切り口と軽妙な話術が受け、大人気に。その成功を受けて、世界で唯一の職業「アートテラー」としての活動に専念。現在は、「美術を楽しく、もっと身近に」を信念にトークイベントのほかアートツアーイベントも手がけるなど、幅広く活躍中。



アートテラーとに～

●松本猛ギャラリートーク

母・ちひろとの思い出や展示のみどころなどをお話します。

6/7 (日) 14:00~

講師：松本猛(絵本学会会長・ちひろ美術館常任顧問)

●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00~

●えほんのじかん

協力：NCBN(ねり子どもと本ネットワーク)

毎月第2・4土曜日 11:00~

「ちひろの本棚」展 関連イベント

●ちひろ美術館で読書会『花の童話集』

ちひろゆかりの絵本や書籍の感想を分かち合いませんか。今回の課題図書は宮沢賢治の童話を集めた『花の童話集』。娘時代を戦争のなかで過ごしたちひろにとって、宮沢賢治は「命のように大せつ」でした。

ちひろは『花の童話集』について「私ふうに好きなように描いたので、それが私にはうれしくてなりませんでした。」と語っています。単行本が文庫本を読み、携えてご参加ください。

6/14 (日) 15:00~16:30 定員：10名

*要申し込み 5/14(木)受付開始



『花の童話集』(童心社)

●ちひろの水彩技法ワークショップ

水彩絵の具のにじみを使って、ちひろの技法を体験する人気のワークショップです。

6/21 (日) 水彩のにじみでしおりをつくろう

10:30~ 対象：5歳~大人 定員：先着70名

参加費：200円

*当日申し込み 受付開始10:00~(最終受付15:00)



7/24(金)・7/25(土) 水彩のにじみで花を描こう

各日 10:30~12:00 / 13:15~14:45 / 15:00~16:30

対象：小学3年生~大人 定員：各回20名 参加費：300円

*要申し込み 6/24(水)受付開始

●わらべうたあそび

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加できます。

7/4(土) 11:00~11:40

講師：服部雅子

(西東京市もぐらの会代表、ほとさん文庫主宰)

対象：0~2歳までの乳幼児と保護者

定員：15組30名



ころがって指しゃぶりをするあちゃん 1965年

<次回展示予告>

2015年8月5日(水)~10月25日(日)

非戦70年 ちひろ・平和への願い

<企画展>日ブラジル外交関係樹立120周年

旅する芸術家 ホジェル・メロ展



ホジェル・メロ 『Jardins(庭園)』より 2001年(個人蔵)

●展示会期…2015年5月27日(水)~8月2日(日)

●開館時間…10:00~17:00(入館は閉館の30分前まで)

●休館日……月曜日(祝休日は開館、翌平日休館)

●入館料……大人800円/高校生以下無料

グループ(有料入館者10名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引/障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

●交通……

◎西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

◎JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

お問い合わせは、広報担当：原島・松本まで

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 テレホンガイド 03-3995-3001 03-3995-0612(代表) FAX 03-3995-0680

